

# ◆2026年度 中学入試 第3回【算数】 正答率・問いのねらい・講評

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
1	(1)	89.6%	97.6%	(1)整数の四則演算	(2)、(3)が王デイより正解率が悪かった。小数・分数の混合計算は基礎学力の差が明確に現れるため、次年度も継続して出題することが望ましい。加えて、設問の難度やバリエーションを調整し、より正確に計算力を測定できる構成とすることが望まれる。
	(2)	68.0%	83.3%	(2)小数・分数の四則演算	
	(3)	78.5%	88.1%	(3)工夫する四則演算	
	(4)	86.5%	97.6%	(4)虫食い算	
2	(1)①	82.6%	92.9%	食塩水の濃度	濃度に関する設問は、基本的な計算手順を問う内容であったため、受験生の正答率は概ね高かった。基礎事項の定着度を確認する問題として適切であり、多くの受験生が確実に得点できていた。
	(1)②	83.4%	92.9%		
	(2)①	86.5%	90.5%	過不足算	過不足算については、基本的な問題設定であったため、受験生の多くが正しく解答できていた。典型的な解法パターンの理解が概ね定着していることが確認でき、特に大きな誤答傾向は見られなかった。
	(2)②	85.7%	90.5%		
	(3)①	67.6%	76.2%	速さ(通過算)	速さ(通過算)の問題については、受験生の出来が全体的に悪かった。文章条件がやや複雑であったことに加え、速さ・距離・時間の関係を通過場面に当てはめる際の理解が不十分な受験生が多く見られた。
	(3)②	46.7%	83.3%		
	(4)①	84.9%	97.6%	つるかめ算	つるかめ算の問題については、基本的な構成であったため、受験生の多くが正しく解答できていた。典型的な設定であったこともあり、解法の理解は概ね定着していると判断される。
	(4)②	81.9%	92.9%		
	(5)①	64.5%	90.5%	体積・水位(比)	体積・水位の比を扱う問題では、受験生の正答率が低く、合格者との差が大きかった。立体図形の構造把握や水位変化を比でとらえる場面ではつまずく受験生が多く、数量関係を正確に処理する力に明確な差が見られた。
	(5)②	56.4%	85.7%		
(6)①	87.6%	92.9%	平面図形(角度)	平面図形の角度に関する問題は、基本的な性質や定理を用いる典型的な内容であったため、受験生の多くが正しく解答できていた。	
(6)②	83.8%	97.6%			
3	(1)	57.9%	88.1%	平面図形(面積)	平面図形の面積で、円の要素を含む問題については、合格者と全体の正答率に明確な差が見られた。円の性質や比の利用など、複数の知識を組み合わせる場面ではつまずく受験生が多かった。一方で、合格者層は図形の構造把握や面積分解の手順が確立しており、得点差となった要因であると考えられる。
	(2)	43.2%	73.8%		
4	(1)	6.6%	28.6%	表の活用(平均点)	表を用いた平均点の問題では、条件に含まれる四捨五入の扱いを正しく理解できていない受験生が多かった。加えて、表の数値関係を読み取り、必要な情報を正確に抽出する力が不十分であることも見受けられた。その結果、正答率は合格者と全体を比較しても芳しいものではなく、表の活用問題における基本的な読解力と数量処理力に課題が残ると考えられる。
	(2)	5.4%	11.9%		
5	(1)	24.3%	45.2%	グラフと旅人算	グラフを用いた旅人算の問題は本校の定番出題であるものの、受験生の出来は全体的に良くなかった。位置関係や速度変化をグラフからの確に読み取る力が十分に身につけていないと考えられる。ただし、この設問は合否への影響は大きくなかった。
	(2)	6.9%	19.0%		
	(3)	4.2%	11.9%		
6	(1)	83.4%	92.9%	場合の数(経路)	場合の数(経路)の問題では、(1)は数え上げがしやすい基本的な構成であったため、受験生の正答率は良かった。一方で、(2)(3)は問題の意味を正しく理解できていない受験生が多かったため正答率が低かった。ただし、これらの設問は合否への影響は大きくなかったと考えられる。
	(2)	1.9%	2.4%		
	(3)	4.2%	9.5%		